

# 名古屋港景観アドバイザーの経験を通して

From Experience as an Urbanscape Design Adviser of Port of Nagoya

伊藤豊嗣

Toyotsugu Itoh

## はじめに

1989～'93年の豊田市都市景観アドバイザー、'95～'98年の名古屋市都市景観アドバイザーに続き、'99年から現在まで名古屋港地区の景観アドバイザーを務めてきた。先の2つが3～4年の任期であったのに対して、名古屋港にはその制限がなく、これまで11年間続けている。長期にわたり特定の地区に関わり、その景観と向きあってきた。この経験を振り返るとともに、よりよい景観デザインのある方を考察したい。

景観アドバイザー制度は、そのまちや地区で計画される民間や公共の建物・工作物について、施主、設計・施工者の当事者が関係機関に申請し、担当部局とアドバイザーが景観という視点で周辺環境に対して問題がないかどうかをチェックするシステムである。実際につくられるものについて対応する行政の最前線といえる。各物件において改善すべき点がある場合は、アドバイザーからその具体的な方法が伝えられ、当事者はそれを検討し、その結果をあらためて提出する。

アドバイザーには、文字表示、サイン、屋外広告、配色などの視覚伝達デザイン分野、建物・工作物などの設計分野、エクステリアから地域全体までの環境デザイン分野のそれぞれで実践しているデザイナーや研究者が委嘱を受けてあたる。自身が経験したものでは、豊田市と名古屋市は各領域ごとに分かれての担当だったが、名古屋港は代々1名による担当だった。

本来、申請された物件は、それぞれの専門分野からの指摘を受けて、見直しがされるべきだと考える。しかし、建物や工作物の場合、中には計画の初期段階での打診というケースもあるが、基本的には具体的な設計がされた上での相談である。そこから構造などを根本的に変更することは難しく、アドバイスも外観の意匠、配色、素材、サイン、敷地周辺の整備といった視覚伝達デザインを中心にした内容が主である。名古屋港の場合は、この範囲の対応をすることを基本としているが、景観形成により有効なシステムにするには、この点に課題があると考えられる。

一つの地区に長年関わったことで、アドバイスにあたった物件がその後どのような形で完成し、機能しはじめてからどんな経緯をたどっているかを追うことができた。また、同じ物件について年度を越えて何度か対応したものも多数あり、共通した視点でのアドバイスができた。3～4年で交代しなければならない制度では得られなかった体験だった。

名古屋港が名古屋市やその周辺都市の中でもどのような特

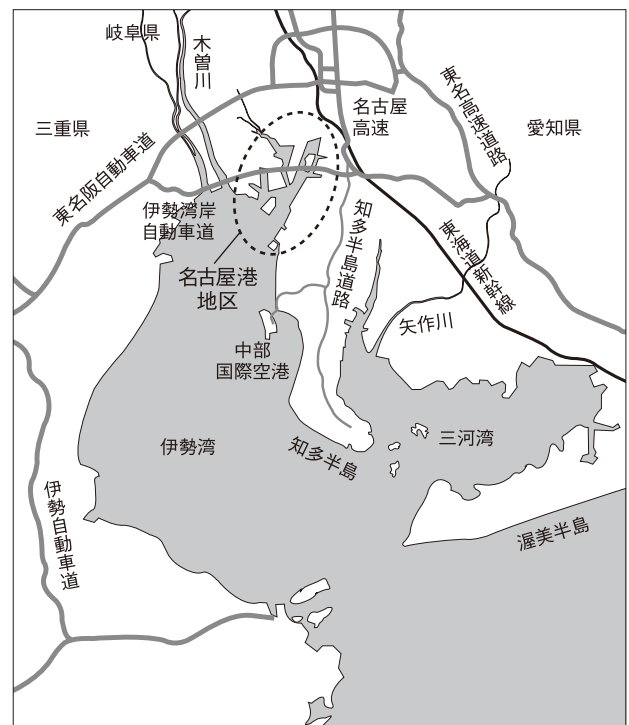
徴を持つ地区であったか。また、どのような社会状況やその変化を受けて変わってきたか。そして、それらがこの地区の景観形成にどう反映してきたかを順に見ていきたい。

## 名古屋港地区について

「名古屋港地区」とは、名古屋港管理組合が管理・開発に関わるエリアを指しており、海を囲むように北西側の弥富市と飛鳥村、北東側の名古屋市、南東側の東海市と知多市の4市1村の広範囲にまたがっている。

名古屋港は、伊勢湾の北東端に位置し、背景には広大な濃尾平野が広がる。道路網では、伊勢湾を取り巻くように走る各高速道路とつながる伊勢湾岸自動車道、国道23号線(名四国道)や1号線、知多半島道路、西知多産業道路が付近を通る。鉄道では、名古屋市地下鉄がガーデンふ頭、名古屋臨海高速鉄道(あおなみ線)が金城ふ頭まで達している他、JR東海道新幹線や東海道本線、関西本線、知多半島に沿って名鉄、三重県方面へ近鉄がそれぞれ走っている。

この地区は、貿易拠点と臨海工業地帯として発展してきており、



伊勢湾を取り巻く地域と名古屋港地区

湾岸沿いには、発電、石油、天然ガス、製鉄、製粉、木材加工、航空機、工業用機械などの工場や備蓄設備(倉庫、タンク、サイロ)、輸出用車両の専用ふ頭、コンテナターミナルやクレーンなどが連なっている。

レジャー関連施設は、名古屋港水族館やコンベンション施設であるポートメッセなごやがあるガーデンふ頭や金城ふ頭を中心につくられてきた。また、鳥獣の特別保護地区としてラムサール条約に登録されている湿地、藤前干潟もこの港の地区内にある。

## 名古屋港地区の歴史

名古屋港付近は、この地域の諸河川の流砂によって陸地化した地帯である。江戸時代初期に東海道五十三次の宿駅が制定され、港の前身である熱田の浜の「宮の宿」は、桑名への「七里の渡し」の渡船場となった。

慶長16年の名古屋城築城に伴い、その資材運搬用として海側から築城地までの水路開削が行われた。これが堀川である。堀川は、この目的の他、城下町の人々の生活物資の搬送にも生かされた。また、これとともにこの一帯での新田開発がさかんに行われ、後に名古屋港となっていく地形的な基盤がつくられた。

明治期、伊勢湾の海上輸送の拠点は四日市であり、水深の浅かった熱田の港からは四日市との行き来のみだった。愛知県内で各種の産業が活発になる中、本格的な港が求められるようになり、10年以上の歳月をかけて1907年に名古屋港は開港した。その後、背後地の産業はさらに発展し、港の貨物量は増加し、船舶の大型化が進んだ。

名古屋市が国内有数の産業都市になるにつれ、港と内陸を結ぶ水運の需要はますます高まり、市内の4河川を河口から掘進してつくる運河網が計画された。その最初として着工されたのが中川運河であり、1932年に開通に至った。

名古屋港では、この地域の発展に伴い拡張工事を続けたが、これにより大量の浚渫土砂が発生し、埋め立て地を造成することとなった。これが工業用地として生かされ、臨海工業地帯が発展することにつながる。

また、名古屋は古くから木材の集散地でもあり、その港での取り扱いや貯木も特徴の一つである。明治前半までは木曾材、飛騨材を木曾三川からのいかだ流送で扱うことが多かったが、開港後は北海道材や外国材が加わっていった。それとともに港内の貯木場も増やされた。

日中戦争、太平洋戦争を経ながら、この地域は軍需産業地帯に移行していったが、その結果アメリカ軍の攻撃目標となり、名古屋港も大きな痛手を受けることになる。終戦となり復興していく中

で、名古屋港管理組合が1951年に設立された。名古屋港の広域にわたる管理・開発を担うことになる。

開港50周年にあたる1957年には、当時の国内ふ頭有数の接岸設備を持った稲永ふ頭が完成。1960年代後半からは、コンテナ船による海上輸送システムが出現し、これに対応する設備や体制の整備が始まった。

1959年に発生した伊勢湾台風では名古屋港も大きな被害を受けるが、これを機に高潮防波堤、背後地を守る防潮壁、堀川口の防潮水門などが整備されることとなった。また、1960年代には、大気汚染、水質汚染などの公害も大きな問題となり、工業地帯を抱え、海や川に関わっている名古屋港では、それに対する取り組みをこの頃から始めた。さらに、もともと緑の環境が乏しい一帯であったことから、1973年より「名古屋港緑化計画」が始まり、稲永ふ頭地区緑地、西知多産業道路沿いの緩衝緑地などが整備されていった。

一方でこうした問題に取り組みながら、長期にわたる埋め立て地の造成・工業地帯の形成は続けられた。そして、現在までに貿易港としてのスケールと各種の機能が整備された結果、2004年に国土交通省から「スーパー中核港湾」に指定された。自動車をはじめとする多くの産業を背景に、'08年まで総取り扱い貨物量7年連続、貿易額8年連続日本一を誇った。

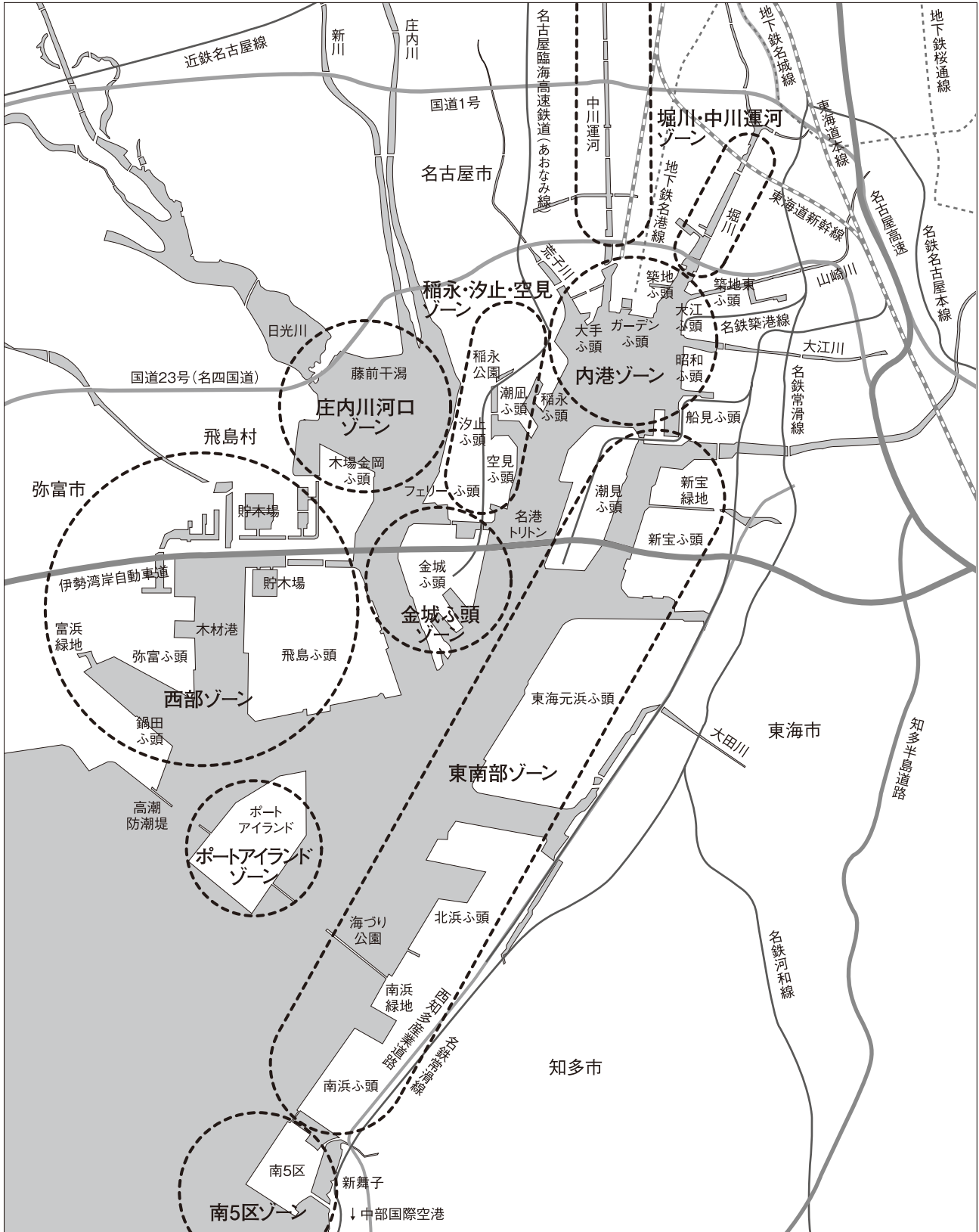
長年にわたり貿易港、工業地帯としての発展を遂げてきた名古屋港だったが、港の情景づくりに本格的に着手していくのは、1980年代の前半からである。この時期は、'70年代後半～'80年代前半に全国の多くの自治体で景観行政がスタートしていく頃と重なっている。どこの都市もまちとしての基本的な機能が整い、その質の向上や快適さの追求へ目が向きはじめた時代だった。良好な経済状況も背景になった。

名古屋港では、現在のガーデンふ頭を親しまれる港づくりのシンボルとしてイメージアップするために、緑地広場('83年)、ポートビル('84年)、ポートハウス('86年)を順次完成。'91年に築地ポータウン計画が策定され、名古屋港水族館南館('92年)、商業施設のジェティ('92年)、シートレインランド('95年)が次々にオープンした。

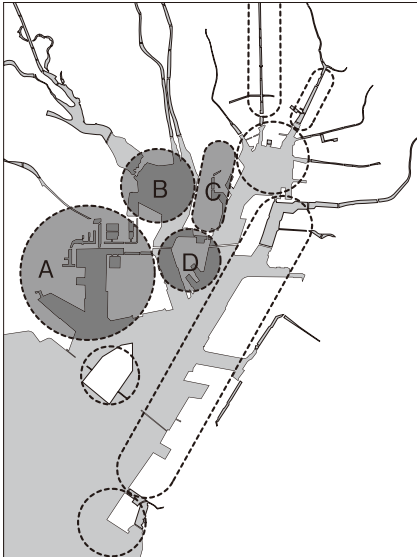
このガーデンふ頭と名古屋国際展示場(現・ポートメッセなごや、'73年開館)を有する金城ふ頭は、名古屋港でのイベント開催の2大拠点だが、ワールド・インポート・フェア・ナゴヤ'85や'89年の世界デザイン博覧会などを開き、多くの来場者を集めてきた。

また、これらのふ頭からの眺望に含まれるところに、伊勢湾岸道路が'85年に開通。海上を渡る箇所には名古屋港三大橋「名港トリトン」がかけられた。この高速道路は、名古屋港と東名阪自動車道を直結する伊勢湾岸自動車道として2003年に完成した。

名古屋港地区の景観基本ゾーニング(名古屋港景観基本計画)



## 地区内各方面ごとの特徴的な要素



西部ゾーン(A)、庄内川河口ゾーン(B)、稲永・汐止・空見ゾーン(C)、金城ふ頭ゾーン(D)



(A) 西部木材港・貯木場



(B) 藤前干潟



(C) 稲永ふ頭・海から見た倉庫群



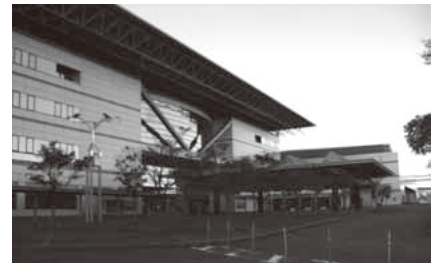
(C) 稲永ふ頭・倉庫



(C) 稲永ふ頭・稲永緑地



(C) フェリーふ頭・フェリーのりば



(C) 金城ふ頭・ポートメッセなごや



(C) 金城ふ頭・あおなみ線金城ふ頭駅



(C) 金城ふ頭・金城ふ頭駅前の結婚式場



(C) 金城ふ頭・フットサルコート



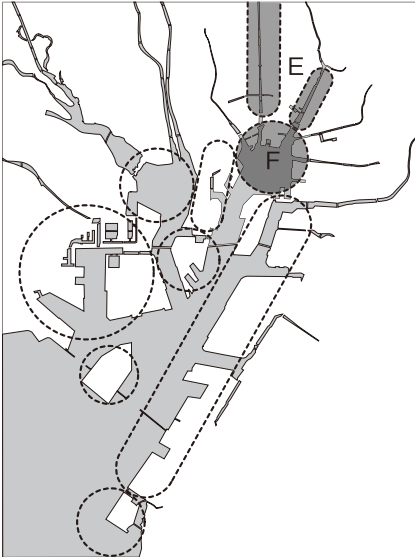
(C) 金城ふ頭・モータープールの自動車



(C) 金城ふ頭・ガントリークレーンとコンテナ船



(C) 金城ふ頭・名港西大橋(名港トリトン)



堀川・中川運河ゾーン(E)、内港ゾーン(F)



(E) 堀川



(E) 熱田・七里の渡し



(F) 中川口・運河沿い



(F) 中川口・中川運河緑地



(F) ガーデンふ頭・海岸プロムナード(西面)



(F) ガーデンふ頭・名古屋港水族館



(F) ガーデンふ頭・海岸プロムナード(南面)



(F) ガーデンふ頭・ジェティ



(F) ガーデンふ頭・観測船ふじ



(F) ガーデンふ頭・ポートビル



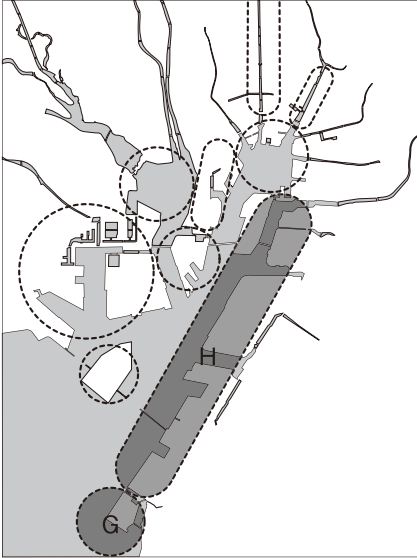
(F) ガーデンふ頭・緑地広場



(F) ガーデンふ頭・閉村後のイタリア村



(F) ガーデンふ頭・イタリア村南隣の結婚式場



南5区ゾーン(G)、東南部ゾーン(H)



(G)新舞子・ブルーサンビーチ



(G)新舞子・ボートパークとタンク群



(H)西知多産業道路沿いの緩衝緑地



(H)南浜ふ頭・海づり公園



(H)南浜ふ頭・知多火力発電所



(H)北浜ふ頭・製粉工場と穀物サイロ



(H)北浜ふ頭・ゴライアスクレーン



(H)東海元浜ふ頭・製鉄所



(H)潮見ふ頭・ブルーボーネット



(H)潮見ふ頭・ブルーボーネット



(H)潮見ふ頭・新名古屋火力発電所



(H)潮見ふ頭からガーデンふ頭を望む



(H)船見ふ頭・名古屋中央卸売市場南部市場

## 景観アドバイザー記録 1999年～2009年

形状)

〈1999年〉

名古屋港水族館北館の建設進む

- 
- 4月 ・金城ふ頭 大型スーパーマーケット 駐車場～建物間の通路の屋根のカラーなど
- 5月 ・船にて海上から名古屋港の景観を視察
- 6月 ・ガーデンふ頭一帯のサイン計画の見直し(1)  
・倉庫2棟の外観カラー
- 7月 ・ガーデンふ頭一帯のサイン計画の見直し(2)  
(ポール状の途中誘導サイン-1)  
・ガーデンふ頭 名古屋港水族館南緑地の舗装などのカラーについて
- 8月 ・鍋田ふ頭 新バースの建物のカラー
- 9月 ・新宝ふ頭 化学工場の外観カラー  
・ガーデンふ頭 ジェティのキャラクターショップの外観  
・ガーデンふ頭一帯のサイン計画の見直し(3)  
(ポール状の途中誘導サイン-2)
- 10月 ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館南緑地の整備について  
(水際の塗装、公園周辺の柵、公園中央の時計塔)  
・南5区 東邦ガス 基地の建物外観や配管類のカラー  
・ガーデンふ頭一帯のサイン計画の見直し(4)  
(地図入りの総合案内、エリア案内、駐車場案内)  
・鍋田ふ頭 名古屋港ゴルフ場の建物の外観カラー(1)  
・飛鳥ふ頭 中部電力 工場の外壁塗り替えに伴うカラー  
・ガーデンふ頭 ジェティの建物一部の外観
- 11月 ・鍋田ふ頭 名古屋港ゴルフ場の建物の外観カラー(2)  
・南浜ふ頭・潮見ふ頭 NTTドコモの鉄塔のカラー、敷地内の植栽など  
・鍋田ふ頭 富浜ゴルフ場の建物の外観カラー  
・ガーデンふ頭サインのマニュアル見直し(1)  
・ガーデンふ頭入口の修景  
・鍋田ふ頭のコンテナターミナルの建物の外観カラー  
・鍋田ふ頭 富浜ゴルフ場の敷地周囲(ゲート、門壁、フェンス)
- 12月 ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館北館前階段のモニュメントの配置  
・ガーデンふ頭 名古屋港水族館南緑地のステージ横に設置する配電盤ボックスのカラー  
・ガーデンふ頭サインのマニュアル見直し(2)  
・鍋田ふ頭 富浜ゴルフ場の敷地周囲(ゲート、フェンスの

〈2000年〉

名古屋港水族館北館11月オープン

名古屋臨海高速鉄道(あおなみ線)、中部国際空港工事着工

- 
- 1月 ・南浜ふ頭 出光・工場の発電設備、煙突のカラー、敷地の整備  
・東海元浜ふ頭 新日鉄・処理施設の建物の外観カラー
- 2月 ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館南緑地の整備状況の現地視察
- 3月 ・鍋田ふ頭 富浜ゴルフ場、コンテナハウスの視察
- 4月 ・南浜ふ頭 出光・工場の煙突のカラー  
・ガーデンふ頭 名古屋港水族館南緑地内のゲートの素材やカラー
- 5月 ・鍋田ふ頭 名古屋港ゴルフクラブのカート庫の外観カラー  
・南5区 海づり公園の敷地内の建物・工作物のカラー、植栽など
- 6月 ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館南緑地～同北館裏側の歩道や公園の各種設備のカラーや素材など  
・ガーデンふ頭 川西倉庫の外観カラーなど(1)  
・金城ふ頭 第五港湾建設局分室 物品管理倉庫の外観カラー  
・船見ふ頭 閘門、築地灯台など名古屋港地区の歴史資源の保存・整備
- 7月 ・空見ふ頭 IDOの通信鉄塔のカラー  
・ガーデンふ頭 名古屋港水族館南緑地内に設置する配電盤ボックスのカラー、ソーラー時計のレイアウト  
・ガーデンふ頭 川西倉庫の外観カラーなど(2)  
・中川運河(中川口地区) 緑地における舗装色(歩道化、公園化)  
・名古屋港の景観形成地区の基準の見直し
- 8月 ・鍋田ふ頭のコンテナターミナルの建物の外観カラー  
・ガーデンふ頭 名古屋港水族館南緑地内の舗装のカラー  
・中川運河(中川口地区)の閘門の保存・整備  
・知多市 ゴミ焼却場の建物の外観カラー  
・鍋田～南5区の景観形成推進調査について(1)  
(高潮防波堤～南5区周辺)
- 9月 ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館南緑地内の解説板などのサイン(1)
- 10月 ・鍋田～南5区の景観形成推進調査について(2)
- 11月 ・空見ふ頭 J-PHONE、東海元浜ふ頭Tukaの通信鉄塔

と周辺設備のカラー

- ・潮見ふ頭 中部電力ブルーボーネットの建物や敷地内の施設のカラー
- 12月 ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館南緑地内の解説板などのサイン(2)
- ・名古屋港南地区重点地区のカラー計画について(2)
- ・金城ふ頭 倉庫群の建物外観のカラー(1)
- ・ガーデンふ頭 西倉駐車場のカラー
- ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館側の汚泥・脱水施設棟の建物のカラー
- ・名古屋港の景観重点地区のカラー基準の見直し(1)

#### 〈2001年〉

中部国際空港、あおなみ線の建設進む

ブルーボーネットの建設着手

- 
- 1月 ・金城ふ頭 倉庫群の建物外観のカラー(2)
  - ・納屋橋 堀川の浮き桟橋の設備のカラー(1)
  - ・名古屋港の景観重点地区のカラー基準の見直し(3)
  - 2月 ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館南緑地内の舗装の素材とカラー
  - ・金城ふ頭 倉庫の文字の配置など
  - ・ガーデンふ頭 ジェティの南広場の舗装のカラー、バス停車位置のシェルターのカラー
  - ・ガーデンふ頭 身障者用駐車場のサイン
  - 3月 ・ガーデンふ頭 桟橋の照明の形状
  - ・納屋橋 堀川の浮き桟橋の設備のカラー(2)
  - 4月 ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館2期工事現地視察
  - 5月 ・ガーデンふ頭 シートレインランド外装修繕
  - 6月 ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館北館のバスシェルターの設定
  - ・あおなみ線の進捗状況の確認
  - ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館南緑地東南端の休憩設備の舗装のカラー
  - ・ガーデンふ頭 一帯のサイン計画の実施実態の確認
  - ・ガーデンふ頭 ジェティの建物外壁の塗り直しのカラー(1)
  - 7月 ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館 汚泥・脱水設備棟の建物の外観カラー
  - ・ガーデンふ頭 視覚障害者用案内板と点字舗装の設置位置など
  - ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館裏側の歩道の海沿い側用柵の形状とカラー

- ・金城ふ頭 安井家具の店舗建物のカラーと壁面表示
- 8月 ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館裏側の歩道沿いのボラードのカラーなど
- ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館南緑地内の解説板などのサイン(3)
- ・ガーデンふ頭 ポール状サインのポールのカラー
- ・ガーデンふ頭 ジェティの建物外壁の塗り直しのカラー(2)
- 9月 ・ガーデンふ頭 一帯のサイン計画 表示レイアウト規定の確認(1)
- ・ガーデンふ頭 視覚障害者用案内板の形状など
- ・ガーデンふ頭 一帯のサイン計画 表示レイアウト規定の確認(2)
- 10月 ・木場金岡ふ頭 トヨタL&F フォークリフト基地の建物外観への表示
- ・ガーデンふ頭 ジェティの建物外壁の塗り直しのカラー(3)
- ・南5地区 空港建設用の桟橋の形状とカラー
- 11月 ・フェリーふ頭 名古屋港フェリービル旅客ターミナルの施設表示の補修のカラー
- ・船見ふ頭 長七閘門の保存方法
- 12月 ・ガーデンふ頭 結婚式場アルカンシエルの建物のカラーや敷地内の植栽など

#### 〈2002年〉

ブルーボーネット4月開園

中部国際空港、あおなみ線の建設進む

- 
- 1月 ・新宝ふ頭 新宝緑地内のトイレ建物の外観カラーや素材
  - ・潮風ふ頭 あおなみ線・電化のための変電所の外観カラー
  - 2月 ・金城ふ頭の現地視察
  - 3月 ・南5区 東邦ガス 緑浜工場の現地視察
  - 4月 ・中川運河(中川口地区)緑地の歩道の舗装や柵のカラーや素材
  - ・新舞子 公園内のステージのカラー(1)
  - ・南浜ふ頭 出光・売電施設の外観カラー
  - 5月 ・南浜ふ頭 出光・発電施設の外観カラー
  - 6月 ・新舞子 公園内のステージのカラー(2)
  - ・潮風ふ頭 あおなみ線・修理点検倉庫の外観カラー
  - 7月 ・フェリーふ頭 テントハウスの外観カラー
  - ・ガーデンふ頭 名古屋市内全域ポイ捨て禁止看板のレイアウトとカラー
  - 8月 ・飛鳥ふ頭 ガントリークレーンのカラー
  - 9月 ・潮風ふ頭 あおなみ線・保守用車庫、信号通信機器室の



外観カラー

- 10月 ・ガーデンふ頭 結婚式場アルカンシエルの現地視察
- 11月 ・中川口ポンプ所倉庫の外観カラー  
・空見ふ頭 東邦ガス 工場の外観カラー
- 12月 ・ガーデンふ頭 名古屋港海洋博物館のポートビル外壁への案内表示(1)

〈2003年〉

中部国際空港、あおなみ線の建設進む

- 
- 1月 ・北浜ふ頭 産業道路沿いの中部電力(知多火力)の鉄塔のカラー  
・ガーデンふ頭 名古屋港海洋博物館のポートビル外壁への案内表示(2)
  - 2月 ・汐止ふ頭 あおなみ線 倉庫などの外観カラー  
・金城ふ頭 あおなみ線・金城ふ頭駅の外観などのカラー  
・ガーデンふ頭 中部地方整備局築地分所庁舎の外壁補修のカラー
  - 3月 ・ブルーポーネットの現地視察
  - 4月 ・名古屋港南東部景観形成基準
  - 5月 ・汐止ふ頭 あおなみ線・野跡駅の外観などのカラー  
・潮見ふ頭 中部電力・リサイクル施設の外観カラー
  - 6月 ・汐止ふ頭・金城ふ頭 あおなみ線・野跡駅、金城ふ頭駅の現地視察
  - 7月 ・新舞子 バーベキューハウスの外観カラー
  - 8月 ・中川口ポンプ所 油庫の外観カラー
  - 9月 ・中川運河(中川口地区)緑地の解説板のレイアウト(1)
  - 10月 ・中川運河(中川口地区)緑地の解説板のレイアウト(2)  
・鍋田ふ頭 富浜ゴルフ練習場の柱とネットのカラー
  - 11月 ・中川運河(中川口地区)緑地の解説板のレイアウト(3)  
・潮風ふ頭 あおなみ線 ネットフェンスと門扉のカラー  
・ガーデンふ頭 ジェティ前の広場のイルミネーションの形状など
  - 12月 ・中川運河(中川口地区)緑地の解説板のレイアウト(4)  
・金城ふ頭 あおなみ線・金城埠頭駅の歩道橋、エレベータータワーの外観カラー、駅前広場の舗装の形状とカラー(1)
- 

大型浚渫兼油回収船「清龍丸」代替船  
色彩アドバイザー委員会委員 (2003年度)

〈2004年〉

- 7月 スーパー中枢港湾に指定される
  - 10月 あおなみ線全線開通  
中部国際空港の建設進む、イタリア村の建設計画
- 
- 1月 ・ガーデンふ頭 ジェティノースの外観塗装変更のカラー
  - 2月 ・フェリーふ頭 フェリーのりばバリアフリーエレベーターの外観カラー  
・新舞子 風力発電の風車や関連設備のカラー(1)
  - 3月 ・ガーデンふ頭 ジェティ、名古屋港水族館北館、名古屋港水族館南緑地の現地視察
  - 4月 ・金城ふ頭 フットサルコートの建物の外観カラーと敷地内の植栽など(1)  
・一州町 DIYショップ カインズホームの外観カラーと敷地内の植栽など
  - 5月 ・新舞子 公園内の休憩施設の外観カラー  
・一州町 ゴルフ用品などのショップ ゴルフ5+DEPOの外観カラー
  - 6月 ・金城ふ頭 あおなみ線・金城ふ頭駅構内の一部のサインの表示レイアウトや設置位置(1)  
・ガーデンふ頭 イタリア村の建設計画の確認  
・木場金岡ふ頭 シーサイドグリーンの屋外広告のレイアウト
  - 7月 ・ガーデンふ頭 イタリア村の外観カラーや素材(1)  
・金城ふ頭 あおなみ線・金城ふ頭駅の歩道橋、エレベータータワーの外観カラー、駅前広場の舗装の形状とカラー(2)
  - 8月 ・金城ふ頭 中央緑地内のトイレの外観カラーや素材  
・ガーデンふ頭 ポートビル外壁へのサイン表示のレイアウトや位置(1)  
・金城ふ頭 あおなみ線・金城ふ頭駅構内の一部のサインの表示レイアウトや設置位置(2)  
・ガーデンふ頭 イタリア村の外観カラーや素材(2)  
・飛鳥ふ頭 中部電力・PCB施設の外観カラー
  - 9月 ・ガーデンふ頭 イタリア村の外観カラーや素材(3)  
・ガーデンふ頭 ポートビル外壁へのサイン表示のレイアウトや位置(2)
  - 10月 ・新舞子 風力発電の風車や関連設備のカラー(2)  
・金城ふ頭 結婚式場 アンジェローブの外観カラーと敷地内の植栽など  
・ガーデンふ頭 イタリア村の外観カラーや素材(4)
  - 11月 ・ガーデンふ頭 イルミネーション スターライトレビューの周囲の広告の表示レイアウト(1)

- ・新宝ふ頭 新宝緑地 公園内のあずまの外観カラー
  - ・稲永ふ頭 稲永防潮施設上屋扉のカラー
  - ・大江ふ頭 三菱重工・大江工場の外壁装飾のレイアウトやカラー(1)
  - ・飛鳥ふ頭 ガントリークレーン他関連設備の外観カラー
  - ・ガーデンふ頭 ジェティ前の広場のイルミネーションの形状など
- 12月
- ・空見ふ頭 庄内川沿いの路肩の柵のカラー
  - ・金城ふ頭 公園内のトイレの外観カラー

〈2005年〉

2月 中部国際空港開港

3月 愛知万博開幕(～9月)

5月 イタリア村開村

1月 ———

- 2月
- ・ガーデンふ頭 イタリア村のサイン計画
  - ・ガーデンふ頭 名古屋港水族館 館内サイン一新に伴う屋外サインの調整
  - ・ガーデンふ頭 地下鉄 名古屋港駅3番出入口付近に設置の案内板の表示レイアウト
  - ・ガーデンふ頭 イタリア村までの歩道端に設置のポール状誘導サインのカラーや形状

3月

- ・金城ふ頭 アウトレットモール FOX Townの外観カラーと表示類のレイアウト

- ・堀川口ポンプ所の建物外壁装飾のレイアウト(1)
- ・ガーデンふ頭 イタリア村 駐車場横の集合表示板の表示レイアウト(1)

4月

- ・ガーデンふ頭 イタリア村の現地視察

5月

- ・金城ふ頭 高速道路出口付近の施設誘導案内板の表示レイアウト

- 6月
- ・潮見ふ頭 中部電力・発電所の建物、煙突の装飾のレイアウトとカラー(1)
  - ・ガーデンふ頭 入口付近の駐車場案内板の表示レイアウト

7月

- ・ガーデンふ頭 イタリア村 駐車場横の集合表示板の表示レイアウト(2)

同立体駐車場の建物外壁の広告の設置位置

8月

- ・ガーデンふ頭 イタリア村のクアハウス新設建物の外観カラー(1)

9月

- ・空見ふ頭 岡谷鋼機・倉庫の外観カラーや敷地内の植栽

10月

- ・ガーデンふ頭 イタリア村のクアハウス新設建物の外観カラー(2)

- ・中川運河沿い公園の歩道舗装の素材とカラー、休憩施設の外観カラー

- ・稲永ふ頭 倉庫群の外観カラー

11月

- ・大江ふ頭 三菱重工・大江工場の外壁装飾のレイアウトやカラー(2)

- ・潮見ふ頭 中部電力・発電所の建物、煙突の装飾のレイアウトやカラー(2)

- ・ガーデンふ頭 イルミネーション スターライトレビューの周囲の広告の表示レイアウト(2)

- ・フェリーふ頭 名古屋港埠頭公社・耐震補強工事に伴う外観カラーの調整

12月

- ・船見ふ頭 名古屋市中央卸売市場南部市場の建物の外観カラー

- ・新宝ふ頭 トヨタテクノクラフト・建物の外観カラー

- ・ガーデンふ頭 名古屋港水上警察・建物の外壁塗り替えのカラー

- ・ガーデンふ頭 イタリア村のイベントピノキオ・オン・アイスの仮説建物の外観カラー

名古屋港開港100周年マスコットキャラクター審査委員  
(2005年度)

名古屋市上下水道局用地空間利用空見分科会委員  
(2005年度～'06年度)

〈2006年〉

1月

- ・名古屋港南5区 小型船だまりのトイレの外観カラー

- ・ガーデンふ頭 イタリア村のクアハウス新設建物の外観カラー(3)

2月 ———

3月

- ・船見ふ頭 船見閘門関連施設の柵、解説板の表示レイアウトと設置位置

4月

- ・ガーデンふ頭 キャッツカフェの外壁塗装変更のカラー

5月 ———

6月

- ・潮見ふ頭 中部電力・発電所の建物の装飾のレイアウトやカラー

7月

- ・鍋田ふ頭 日本通運・倉庫の外観カラー

8月

- ・金城ふ頭 あおなみ線・金城ふ頭駅前からポートメッセへの誘導サインの表示レイアウト

9月 ———

10月

- ・金城ふ頭 フットサルコートの建物の外観カラーと敷地内の植栽など(2)

・ガーデンふ頭 名古屋港水族館裏側 芝生広場内の  
厨房コンテナの外観カラー

11月 ・ガーデンふ頭 イルミネーション スターライトレビューの周囲  
の広告の表示レイアウト(3)

・ガーデンふ頭 イタリア村のイルミネーションの形状など(1)

・ガーデンふ頭 ジェティ前広場～名古屋港水族館前の  
イルミネーションの形状と設置位置

12月 ・船見ふ頭 船見開門保存部分の塗装のカラーと解説板の  
表示レイアウト

#### 〈2007年〉

名古屋港開港100周年、記念事業開催

名古屋港湾合同庁舎、名古屋港管理組合新庁舎の建設計画  
フットサルコート(大洋薬品オーシャンアリーナ) 着工

1月 ・中川運河(中川口地区)緑地のトイレ、舗装の素材とカラー

2月 ・船見ふ頭 船見緑地・グラウンドの案内板の表示レイアウト

3月 \_\_\_\_\_

4月 ・ガーデンふ頭 第1名港ビル屋上に設置の名古屋港開港  
100周年の広告の表示レイアウト

・ガーデンふ頭 ピンクリボンキャンペーンに伴うポートビルの  
ライトアップの方法

5月 ・金城ふ頭 安井家具ファニチャードーム 増設建物の  
外観カラーや装飾のレイアウト

6月 ・ガーデンふ頭 名古屋港湾合同庁舎別館新築建物の  
外観カラー(1)

・ガーデンふ頭 名古屋港水族館前のイルミネーションの  
形状と設置位置

7月 ・鍋田ふ頭 水路上の橋のカラー

8月 \_\_\_\_\_

9月 ・中部電力発電所、名古屋市中央卸売市場南部市場  
などの現地視察

10月 ・稲永ふ頭 倉庫群の塗装のカラー

・ガーデンふ頭 名古屋港湾合同庁舎別館新築建物の  
外観カラー(2)

・ガーデンふ頭 イタリア村のイルミネーションの形状など(2)

11月 ・ガーデンふ頭 名古屋港湾合同庁舎別館新築建物の  
外観カラー(3)

・ガーデンふ頭 イルミネーション スターライトレビューの周囲  
の広告の表示レイアウト(4)

・ガーデンふ頭 一帯のイルミネーションの形状と設置位置

12月 ・ガーデンふ頭 名古屋港管理組合新庁舎、

ホテル ルートインの外観意匠、カラー、外壁への表示、  
装飾(1)

#### 〈2008年〉

6月 フットサルコート(大洋薬品オーシャンアリーナ)開業

名古屋港湾合同庁舎、名古屋港管理組合新庁舎の建設計画  
イタリア村閉村

1月 ・ガーデンふ頭 名古屋港管理組合新庁舎、  
ホテルルートインの外観意匠、カラー、外壁への表示、  
装飾(2)

・ガーデンふ頭 結婚式場アルカンシエルの増設建物の  
カラーや敷地内の植栽など

・金城ふ頭 フットサルコートの建物への表示や看板の  
レイアウト

2月 ・飛鳥ふ頭 98号岸壁の休憩施設の外観カラー

・中川運河(中川口地区)緑地のあずまやの外観カラー

3月 ・中川運河(中川口地区)開門の表示板、解説板の  
表示レイアウト

4月 ・ガーデンふ頭 結婚式場アンジェローブ 増築部分  
(待合室)外観カラーや敷地内の植栽など

5月 ・ガーデンふ頭 地下鉄名古屋駅付近のマンションの  
外観カラーと外壁への装飾

6月 \_\_\_\_\_

7月 ・北浜ふ頭 日清製粉・サイロへの表示レイアウトとカラー

8月 ・船見ふ頭 名古屋市花き市場の建物の外観カラーと  
外壁への表示レイアウト、敷地内の植栽など

9月 ・昭和ふ頭 リサイクル業 グリーンサイクル(株) 工場の  
外観カラーと外壁への表示レイアウト、敷地内の植栽など

10月 ・金城ふ頭 53号岸壁 自動車積み込みのためのカーポート  
内の休憩施設の外観カラーと敷地内の植栽など

・潮見ふ頭 廃棄物処理業(株)サンビックの保管タンクの  
カラーや装飾

・中川運河 篠原橋北の名古屋鋼業(株)の外壁塗り替え  
のカラー

11月 ・ガーデンふ頭 イルミネーション スターライトレビューの周囲  
の広告の表示レイアウト(5)

12月 ・ガーデンふ頭 名古屋港管理組合新庁舎の外観や  
建物前階段の意匠

〈2009年〉

名古屋港湾合同庁舎、名古屋港管理組合新庁舎の建設進む  
空見スラッジリサイクルセンター建設着手

---

1月	————
2月	・空見ふ頭 空見スラッジリサイクルセンターの一部着工分 施設の外觀意匠やカラー
3月	・ガーデンふ頭 旧イタリア村隣の結婚式場 クレール 建物 の外觀カラー
4月	————
5月	————
6月	・飛島村木場 (株)丸宗倉庫建物の外觀カラーと敷地内 の植栽
7月	・ガーデンふ頭 結婚式場 クレールベイサイドイタリア村 建物の外觀カラー(結婚式場施設との配色の調整)(1) ・堀川口ポンプ所の建物外壁装飾のレイアウト(2)
8月	————
9月	・空見ふ頭 空見スラッジリサイクルセンター内の煙突の カラーと装飾
10月	————
11月	・ガーデンふ頭 スターライトレビュー シンボルツリー周囲の 広告の表示レイアウト
12月	・ガーデンふ頭 結婚式場 クレールベイサイドイタリア村 建物の外觀カラー(結婚式場施設との配色の調整)(2)

---

以上が11年間のアドバイザー記録だが、物件のおおよその  
分類ごとの件数比率は以下のとおりである。

- ・民間のレジャー、商業施設関連 22%
  - ・民間企業の工場や倉庫などの業務関連 17%
  - ・港特有の業務設備、建物、橋、輸送機関関連 25%
  - ・公共施設、公園や緑地の整備、サイン計画、照明関連 36%
- 民間と公共的なものでは4対6の比率であり、公共の中でも直接  
修景に関わる上記の第4分類がその6割相当になっている。

## まとめ

名古屋港では、1998年に「名古屋港景観基本計画」を策定し、11年を経た2009年にその間の諸状況の変化を踏まえ検討を加えた第2版を策定した。港特有の水辺風景、歴史資源、異国情緒といった要素と、物流と産業の拠点として発する活力をもとに、当初から景観形成の基本理念に「ロマンと活気」を掲げてきた。地区内をその特性ごとにゾーニングし、それぞれのところでロマンや活気のある景観を目指した。また、「名古屋港カラー計画」としてゾーンごとに建物や工作物への使用色の範囲を決め、これに沿って各々の景観上の特徴を際立たせるようにしてきた。

第2版の策定では、自身もその点検・検証委員会に加わったが、基本理念をはじめとするこれらの考え方は、現在までその方向で実践されてきており、今後も継承していくことが確認された。

現在、この実践は良い形になっているところもあれば、まだまだ不十分であったり、周囲へ連動していかず単発で終わっているケースも多い。地形的な条件や港の機能の性格など、この地区ならではの景観形成上の課題がいくつか考えられる。最後にそれを取り上げておきたい。

### ●名古屋港地区の地形と景観

この地区は背後地がおおよそ平地で、湾岸部も埋め立てによって造成された土地が多い。この地形が、内陸から港、港から内陸のどちらの方向からも、景観を考える上でポイントになるところである。

都心からは、港まで鉄道で20分程度の距離にありながら、神戸市や横浜市のように高い山などから沖合いを見渡せるという地形ではない。海が身近な存在になりにくい。また、港に立っても、ガーデンふ頭ならばポートビルの展望台などに上がる以外は、高い位置から沖合いを見渡すという感覚が得られなかった。

水際に向かう高層の建物や高低差のある緑地などが、これまでの間にもつくられるようになってきたが、この方向で今後も考えられ、海へのビューポイントが増えていくことが望ましい。また、それは海からの見え方としても、変化に富んだ沿岸の構成に繋がることだろう。

内陸と港との連結という点では、かつて水運に生かされた堀川や中川運河などは、まちの資産として見直されてもきている。河岸を整備して親水性を高めたり、レジャークルーズ用に屋形船などを浮かべるようになった。今後、さらなる周知や機会づくりによって、これらを通して海との繋がりが意識されることを望みたい。

### ●名古屋港の機能と景観

名古屋港は、現在まで長く貿易や産業中心の港であった。沿岸には工場、倉庫、煙突、鉄塔、クレーン、タンク、サイロなどが立

ち並び、コンテナや輸送用自動車が溜め置かれ、鉄鉱石や土砂がうずたかく積まれている。これが長年この地区の主たる風景であったことを、特に港の周遊船から眺めた時に実感する。日常からは離れていて、産業観光資源という視点では大変ユニークだとも感じられる。しかし、いずれも視覚的には殺風景、ごつい、固いなど心地よさからはほど遠い存在でもあった。

先述したように、この地区で緑化が意識され始めたのは1970年代前半から。また、レジャー・文化施設の建設や、各種のイベント開催がさかんに行われるようになったのは'80年代前半からである。それぞれの意味あいでの拠点となる場所は、いくつかできてきたが、心地よい景観が連なって全体で形成されるには、これからも時間と意識を要する。

1980年代後半のバブル全盛の頃には、まちに人工的な要素を付加するような景観づくりが全国的に多く見られた。一時の目新しさはあるものの、すぐに陳腐化するし、メンテナンスが悪いと哀れなものになった。

その後、背景的に環境意識の高まりもあって、人が基本的に心地よいと感じることのできる、緑・空・水との触れあいの場をつくり出すような事例が見られるようになった。名古屋港地区でも、これまでにガーデンふ頭・海岸プロムナード沿いの芝生広場、潮見ふ頭の名古屋港ワイルドフラワーガーデン・ブルーボーネット、東邦ガス知多緑浜工場のビオトープの実践などがあげられる。

地区の南東部には臨海工業地帯が広がっているが、その内陸側を走る西知多産業道路沿いには、1970年代前半から緩衝緑地が設けられた。現在では、広大なグリーンベルトを形成していて心地よい。しかし、海側からは工場や関連施設の建物・設備がそのまま見えている状態が多い。それらへの色の取り扱いについては意識されるようになったが、海から見える緑の景観はあまり配慮されていない。この視点での取り組みも望みたい。

また、この地区内のレジャー・文化施設では、自身が務めた11年の中で、計画から完成、その後の経緯までの全段階でアドバイスに関わった物件がいくつかあった。そのうち、施設の運営の難しさを目の当たりにした典型的なものが、ガーデンふ頭にできたイタリア村だった。同じ場所にあった旧・穀物倉庫の躯体を生かしながらヴェニス風の古いまち並みを再現。イタリア関連の美術館、飲食店、物販店、屋外にはゴンドラに乗れる水路を配した。愛知万博と同じ2005年にオープンし、当初は多くの来場者を集めたが、継続的に維持することができず、苦況に陥った。さらに、この施設の中の木造建築が違法であるとの指摘を受けた。そして、4年目の2008年に閉村に至った。

全国でテーマパークを続けていくことの難しさが語られる中で、このような経過をたどったが、ここにもいくつかの課題が見られる。

「非日常性」がテーマパークに求められる魅力の一つとすれば、その場のスケール感、現実の生活空間との切り分け、施設内のつくりこみなどが必要だろう。また、繰り返し出かけたいような事業展開がないと、来場者数の維持は難しい。あえてこの場に異質なものを生み出すからには、そうした踏みこみが求められるところだが、それが不十分だったと考える。

### ●名古屋港地区と景観行政

地区内に計画される物件に対応していく行政側のシステムや考え方に関する課題も取り上げておきたい。

まず、冒頭でも触れたが、アドバイザー制度に沿って物件が申請された段階では、すでに当事者による具体的な設計が進んでおり、そこからの根本的な見直しはされにくいという点について。

現行では、この一步手前で建設計画について当事者とやりとりするような仕組みはない。しかし、地区をあげて良好な景観をつくり上げていくためには、この段階が大変重要である。これまでも、計画の初期段階に当事者側から、構想しているプランを積極的に打診してくるケースがあったが、行政側からそのような働きかけをするのも方法だと考える。制度としての検討も必要だろう。

次に、地区の特性を踏まえ、それに見合った景観配慮をしようとして行政側が設定した事柄が、本当に現実に即したものになっているかという疑問につきあつた事例をあげてみたい。

1つ目は、先述の「名古屋港カラー計画」(1995年制定)である。地区内のゾーンごとに、建物などの主たる部分とアクセント部分に使用可能な色の範囲を決めている。海に面していて、工場や倉庫などが多く、色みの乏しい地区であるために、特にアクセント用の色などは彩度が全体にかなり高めに設定されている。しかし、使う部分や色の組み合わせによっては、大変きつい表現になる。倉庫などに適用され、そのようになっている例もあった。

2つ目は、ガーデンふ頭のある築地地区のまち並みの「三角屋根」である。これまでこの一帯は名古屋市の都市景観整備地区になっており、その景観形成基準の中で「建物の屋根の形状は三角形を原則とする」として、共通の形状によるまち並みづくりが求められてきた(屋根に限らず、建物外観に三角形の意匠を生かすことも含む)。この基準は、建物の構造そのものが三角屋根で、それが連なってこそと考えるが、実際にはまち並み全体へ十分には広がっていかない。また、現状では四角いビルが計画されるケースも多く、既存の部分とイメージが連続していかない状況である。この基準があるために、ビルを計画している当事者が、何らかの形で外観に三角形を生かさなければと苦慮している様子を見受けることも何度かあった。

2つの事例ともに、10数年以上前にこの地区の景観づくりの指針として、専門家も入って定められ、現在に至っているものだ。

しかし、これまでの実践の中で現実にあてはめていく上で、行政側が目指した方向とくい違う問題点が現われてきた。景観形成の上で十分な形にならなかったり、あるいは度を越えた方向に行ってしまうなど、様相は様々だが。

これらの問題の起因となる、もとの基準の決め方には、慎重な設定や取り決めが求められる。色彩や形状といったひとの感覚に関わるものを、行政の一定のルールとしてゆるがないものにしていくのは大変難しいことである。だからこそ、基準決定にはそれが本当にふさわしいかどうかをデリケートに判断する目が求められる。また、運用がより有効で無理のないものになるよう、経験を通して調整されていくことも必要だろう。

今回は、名古屋港という一つの地区に限ってまとめたが、この10年前後の特に経済状況や市民意識など社会の変化と、それに伴う景観の受け止められ方、景観行政として行われたこと、景観法の施行とその影響など、このテーマを取り上げる上で、あわせて触れておくべきことが多数あった。十分に触れることのできなかった点は次の機会にまとめたい。

#### 参考文献

- ・朝日新聞(2001～'09年の社会・経済関連、都市景観関連、名古屋市関連他の記事より)
- ・日本経済新聞(2001～'09年の社会・経済関連、都市景観関連、名古屋市関連他の記事より)
- ・名古屋港開港100年史(名古屋港管理組合)
- ・名古屋港景観基本計画(第2版)(名古屋港管理組合)
- ・名古屋港カラー計画(名古屋港管理組合)